

G7 広島サミット NO! の声をもっと、もっと!

京極紀子(G7 いらない!首都圏ネットワーク/
「G7 広島サミットを問う市民のつどい」実行委員会)

来月、広島で開催される G7 サミット。広島現地では、期間中の企業や学校の休業など、地域社会への影響も拡大している。安倍元首相への銃撃事件や岸田首相への爆弾騒ぎもあり、最大級のサミット警備が展開され厳戒態勢だ。

7カ国のうち3カ国が核の保有国で、アメリカの大統領は「核のスイッチ」と共に広島にやってくる。自らを「山の頂上(サミット)」と呼ぶ傲慢な人々が集まって「核なき世界」の「平和」を語る欺瞞に広島の人々は怒り心頭だ。誰のための、何のためのサミット?

広島では一週間前13日~14日「G7 広島サミットを問う市民のつどい」が準備されている。軍拡のために被爆地ヒロシマを政治利用するな! サミット NO! の声を届けよう。

★サミットとは? 10年前は「G8」

—ロシアもその一員だったのだ…

ベトナム戦争での米国の敗北後、先進国による資源支配が立ち行かなくなる中で、国連を差し置き、1975年、体制立て直しの戦略会議として始まったサミット。冷戦後にはロシアも参加して G8 に。2014年ロシアのクリミアへの軍事侵攻を受け、ロシアは抜けて再び G7 に。G7 は正式な国際会合ではなく先進国首脳による自由闊達? な議論の場として位置付けられてきた。事務局はなく持ち回りで議長国となり、1年間を仕切っていく。2023年は7年ぶり日本が議長国なのだ。首脳会合だけでなく、各地で大臣会合が開かれる。12月水戸の内務・安全相会合まで「サミット災害」拡散とはたまったものではないのだ。

「安保3文書」を改訂して、敵基地攻撃能力を保有し、軍事費の NATO 並み GDP 比 2%—5年間で 43兆円と言う天文学的数字をぶち上げた岸田政権は、年明けから G7 行脚を展開、1月には G7・NATO の 5カ国訪問、ドイツ(今年の議長国)のシュルツ首相は3月に来日した。3月には韓国ユン大統領も来日、

その後 G20 の議長国インドを訪問、その足で電撃的? なウクライナ訪問も実現した。彼らを広島サミットへ招待(ゼレンスキーはリモートで)する。山積みされる課題を G7 の権威で乗り切ろうという岸田政権。国内の意思決定のプロセスを無視してトップダウンで物事を決める場として利用されてきたのもサミットの特徴だ。サミットを利用して既成事実化するインチキを許してはいけない!

★軍都広島で G7 の問題を考える

世界経済の問題を話し合う場として始まったサミットだが、ポスト冷戦の対テロ戦争を通じて軍事安全保障も主要なテーマだ。今年のサミットは、今年のドイツに続いて戦時下のサミットである。NATO+オブザーバーとしての日本の結束と戦争継続のためのウクライナ軍事支援の形が話し合われるだろう。加えて日本の軍拡、この間の各国訪問の中では2国間の軍事協力や経済安保の連携などについても話された。対ロシアだけでなく、台湾海峡地域、インド太平洋地域まで広げた中国包囲網の形成などを目論んでいる。私たちが望

む戦争の終結や平和からは遠くなるばかりではないか。

岸田首相は、就任した一昨年の所信表明演説で「被爆地広島出身の総理として『核兵器のない世界』を目指す」と宣言した。広島サミット開催は彼の悲願だと言う。実は東京生まれ東京育ち。世襲議員として選挙区広島を継いだに過ぎない。広島のことを知っているのだろうか。被爆地広島の被害だけでなく、軍都広島の加害の歴史も語らなければ本当の広島とは言えない。「市民のつどい」のみなさんは、被爆者、歴史家であり、また日米の軍事基地に反対し、日本軍「慰安婦」問題に取り組む等、広島（日本）の加害、侵略戦争の責任を深く考えて来た。韓国徴用工問題でも日本の意向に沿って封じ込める様圧力をかけ、パートナーとして G7 に招待する様な卑劣なやり方をする日本政府。恥ずべき国だ。

★広島、全国、世界の仲間たちと共に

G7に NO!

広島では歓迎ムードがねつ造されるが、テロ対策を名目にした過剰警備や訓練、民衆監視が強化され、本番が近づくほどに生活への影響も出初めている。歓迎の中心は経済界で、広島を中心企業マツダはサミット前後5日間の休業を決めた。首脳らが訪問予定の宮島は全面封鎖、旅館、土産物店等休業を余儀なくされる。小中高校も休校になる。平和記念公園や原爆資料館も休館、公共交通機関の運休も……。5月の爽やかな季節だが、市内は全国から集められた警官ばかりでのんびり散歩できるような状況でもないだろう。

4月16日から軽井沢で開催された外相会合



軽井沢での抗議行動

では、会場となる側の駅の南口は閉鎖し、一般の人々は締め出された、会場近隣には静穏保持法が敷かれデモなど禁止、長野の仲間たち呼びかけの抗議行動に参加したが、駅から離れた場所に追いやられた。それでも約30人が集まり、思い思いのアピールで「サミットいらない！」の声をあげた。旧軽井沢の観光スポットは賑わいサミットなど無関係の人ばかり—その健全さにホッとしたりもした。

「市民のつどい」は5月13日13時から。豊永恵三郎さんの特別報告と8人の方からテーマ別報告。翌14日午後、原爆ドーム前での集会とデモ。ゲストにウォルデン・ベローさんを迎えて、岸田首相とは全く別の中身を持ったグローバルサウスの声を聞きたい。

問題を資本の側に都合よく解釈することを許してはならない。戦争・貧困・環境・開発・核・ジェンダー、人権・・・、さまざまな課題が「G7」と繋がっていて、彼らに勝手に決めさせない取り組みが必要なのだ。広島に関いに連帯し、また各地で開催される大臣会合に反対する仲間たちとともに、首都圏からもG7いらない！の声をあげていこう。

*「G7 広島サミットを問う市民のつどい」の情報は

<https://www.jca.apc.org/no-g7-hiroshima/> *賛同も集めています！

*G7 首脳会合最終日は東京で！G7 NO! のリレートークをやります！

5月21日(日)14時～ 新宿アルタ前 主催 G7いらない首都圏ネットワーク